



北のシュプール

第500号

発行 北海道勤労者スキー協議会機関紙部 編集責任者 金濱 茂
 札幌市白石区平和通3丁目北 3-13-202 tel&fax:011-784-3272 郵便振替 02700-7-48231
 ホームページ: <http://www.wsah.info/> e-mail: wsaj.hokkaido@gmail.com

「北のシュプール」第500号の節目を迎えました

道スキー協の機関紙「北のシュプール」が1981年4月20日に刊行され、今号で500号を迎えました。行事の報告や会員間交流等の役割を担い定期的に途切れることなく発行し約44年10カ月で道スキー協の歴史として一つの節目となりました。名前の由来は、当時の事務局長が道スキー協の足跡が最初から最後まで振り返れるように、そして途切れることのないように、可能ならばシュプールがより美しくと思いつつ独断で決めたそうです。今後も諸先輩方から脈々と受け継がれてきた「北のシュプール」を継続して発行して行くとともにホームページ等もさらに充実させ十分な情報発信に取り組んで行きたいと考えます。「スキーの楽しさを広げて、ひとりぼっちのスキーヤーをなくそう」をモットーに今後も活動を展開していくために、物価高騰、地球温暖化等々スキー環境に影響を与える問題に知恵を出し合い乗り越えて行く必要性を改めて認識しているところです。機関紙の内容を含め、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

理事長 三浦 裕子

これからの道スキー協を盛り立てていく若い指導員おふたりに寄稿していただきました



「今のスキー協について」思う事

スカディ 後藤 明美

「若い」20年過ぎてもそう声をかけていただき恐縮です。

今シーズン20数年ぶりに指導員研修を受けました。そこには、私が指導員休止している間も、自分よりも20歳以上年上の指導員が、進化を続け、スキー協を支えてくれている姿があります。

スキー技術の表現も私が知っている、角付け、荷重、ポジショニングから、アンギュレーション、内外旋。協定種目は、初歩パラ1・2、ベーシック等と英語を習うような単語ではありませんか。

これは、時代が変わっていると実感した私は、今シーズン基礎練習を中心にスキーを学ぶことを決心しました。

そして、スキー協のありがたいところは、高いお金を払わなくても、熱心に指導して下さる指導者が、沢山いるというところ。それも、忍耐強く、何度も同じ練習をバリエーションを持ち得ながらの指導。

年月が経過しても、快く迎え入れてくれる、スキー団体、クラブがあることに本当に感謝しかありません。

これからのスキー環境としては、温暖化でのスキーシーズンの短縮、スキー用具、リフト代の高騰でさらに厳しくなるでしょう。その上、スキー場までの移動時間があり、荷物も多く、手軽なスポーツではありません。

スキーをする人は、スキー技術の向上心のある人ではないとお金と時間をかけて行っていかなくなるでしょう。

スキー協としても、テクニカルコンペやデモ選等スキー技術の向上に向けての新たな取り組みを開始しています。私も来シーズンは、チャレンジしたいと思っています。

さらなる技術向上に向け、みんなで取り組み、スキー協を盛り上げていきましょう。年齢問わず、スキーを通じ青春しましょう。



「スキー協について」思っていること

ぎやろっぷ 二瓶 充

自分がぎやろっぷの会員になって早9年目になります。ダブル会員のオフピステも6年目になります。これまで活動してきた思うのは、スキー協はともしっかりした組織だということです。クラブ運営、財政、技術指導、会報それぞれの役員が規約に基づき活動していま

す。各クラブ特色が有りますが、スキー協が一番良いところは、他クラブの人達とも例会や指導員研修や競技会を通じて交流出来ることだと思います。スキー協の全ての会員が仲間なんだと実感します。日常生活でこれほど幅広い年代の人と仲間として交流することは難しいです。スキーを通じてそれが出来るスキー協は本当に貴重です。なのでもっと多くの人々に、このスキー協を知ってもらい一緒に活動出来たらいいなど常々思っています。しかし現状は70代が55%、60代が25%です。このままでは5年後、10年後には会員数は半減して組織の存続すら難しいのではと思っています。維持発展には若い世代が必要です！しかし厳しい経済状況に加え、深刻な雪不足などスキー離れが加速しているように思います。私達は多くの人にスキーの楽しさや仲間と一緒に活動する楽しさを伝えなくてはなりません。SNSを使ってPRはもちろんです、まずは例会に参加してもらうことが大事です。スキー協として思い切った施策も必要かもしれません！例えば入会金、初年度年会費無料！さらにリフト代の補助とか…金銭面だけでは無いとは思いますが、まずは門戸を広げることも必要かなど。スキー協の中に深雪サークルとかコブサークルとか有るのも面白そうです！

余談ですが、各スキー場はシニア、グランドシニアばかり優遇していますが10年後はどうでしょう？今スキーをしていないミドル世代がシニアになったからといって急にスキーを始めるとは思えません。スキー業界全体でも先のことを考えて欲しいところです。まずはスキー協が魅力有る組織になりましょう！

第42回スキーフェスティバル

実行委員会 事務局 金濱 茂

カムイがほほ笑んだ！2日間！

今年で42回目を迎えるスキーフェスティバルは、2月1日・2日カムイスキーリンクススキー場・旭川トーヨーホテルにて行われました。



開催まじかにインフルエンザ発症によるキャンセルもありましたが全国各地より15クラブ73名の参加、宿泊52名、交流会53名で行われました。

開会式では三浦裕子実行委員長あいさつ、各コースリダー紹介、注意事項などが話されました。当日は朝から、太陽とカムイの神々がほほ笑み、何とか天候・雪に恵まれてよく整備されたゲレンデやオフピステを12コース14班、リーダー13名で思う存分味わい、夜の夕食交流会では島崎徳明会長あいさつ、地元ゆきうさぎ副実行委員長による乾杯で交流会がスタート。ホテルの美味しい料理、実行委員で販売した生ビールをいただきながら、ユニークで楽しいクラブ紹介、地元旭川の豪華？景品の抽選会、差し入れ（本場千葉の落花生）をゲットするじゃんけん大会など楽しい交流となりまし。その後石川副実行委員長の撮影したビデオ上映会が有り、各コースの滑りが映し出され歓喜を挙げていました。

2日目も快晴の中9：00～12：00まで各コースリダーの元、おいに楽しんで、2日間事故もなく終える事が出来ました。閉会式では各コースリダーへの感謝の拍手、4つのコースからの感想を頂き、石川副実行委員長の閉会あいさつで無事終える事が出来ました。その後全体、各クラブごとの写真撮影など行いました。

追伸 閉会式に間に合わないコースもありました（終了時間の勘違い）がケガもなく30分遅れで集まりました。

深雪・林間コース ぎやっろぶSC 猪口 義勝

カムイスキーリンクスは、絶好のゲレンデ。緊張感と高揚感。ワクワクが止まりません。まだ、雪慣れしていないこの足で深雪林間コースへ突っ込みました。その勇気をくれたのが表山さんのめっちゃめっちゃ力強い指導「やっぱり、これがないと突っ込めないね。」一緒に滑ったオーストリア帰りの水上さんも同意見で「ひとりじゃ入れないよね。」そして、後ろ



から見守り隊の横山さんの時より聞こえてくるボヤキがなごませてくれます。夜のフェスティバルは、たくさんの交流があり、これまた楽しかったです。こんなに多くのスキーヤーが、元気に滑っていると思うと負けられないですね。2日目は、山スキーチームも加わり、人数も増えて林間のスリルと浮遊感をみんなで楽しみました。



山スキーコース 音江山

鵜野富美子

スキーフェスティバル1日目、山スキーは11名参加、今年も音江山に行きました。天気が心配でしたが現地に近づくにつれ青空が広がり、登山日和となりました。

駐車場が狭くシャベルで駐車スペースを作ったので駐車が少し時間がかかりましたが、トレースはくっきり、順調に歩けました。登山口の看板は首のところまで雪が積もり、今年は雪が多い様子。キラキラした新雪の林の中をゆっくり、休憩を取りながら約3時間かけて『登頂』！山頂近く、白樺林の中、見通しが悪くなり雲の中に入ったようでしたが雲を抜けた頂上は青空と絶景が待っていました。ふかふかと積もった雪と空知の平野とイルムケツの山々、風がなく寒く感じない至福の時間でした。ゆっくり休み、景色を堪能し、さて滑走～！ターンしては転び、止まっては転び、苦戦しましたが、お腹一杯パウダーを楽しみました。全員登頂、無事下山楽しい1日でした。

デモ・テクニカルコンペ無事開催

【技術部 五十嵐佳葉】



記録的少雪の中、北長沼スキー場にて北海道で2回目となるデモ選 & テクニカルコンペ (STC) が無事開催されました。今回は遠く大阪スキー協から2名、会員外の方6名の参加があり、合計26名(デモ選16名・STC10名)がエントリーしました。

会員外の方からは『最高!』『アットホームのとても温かい雰囲気

で素敵。』『皆さんに声を掛けてもらって本当に嬉しかった。』『来年も是非参加したい。』等の感想を、検定員からも『参加者の笑顔が印象的だった。』『今年も成功できたのは北海道の皆様のご努力の賜物。』との言葉をいただき、私たちが大切にしていることを認めてもらえた様で嬉しかったです。

カメラマンの三上さんご夫妻が来られなくなったと聞けば、選手のためにホームビデオやスマホで撮影してくれる方々が現れ、点数が伸びなかった種目については検定員の皆さんがお昼休憩返上で補習、知人他人関係なく熱い声援を送る40名超えの応援団……。他では考えられないことだらけの温かい大会でした。選手・応援・検定員・運営一丸となって北長沼に『楽しく・早く・上手くなる』をアピールできたと思っています。ありがとうございました。来年は3回目。道スキー協の大切な行事として、発展していけることを願っています。

デモ選・テクニカルコンペに参加して

札幌 GROW 藤井 隆幸



今年の1月は、なぜか札幌周辺には雪が降らず、北長沼スキー場のゲレンデは、雪不足と暖気で解けた雪が凍り、昨年と比べると硬めのバーン設定となりました。前日の講習は萩原副会長、岡田技術教育局長、野瀬技術部長のコメントやアドバイスをもらいましたが、なかなか上手いかわず、滑るたびに「頑張って!もう一本」と激を受け何本もリフトに乗りました。私の課題は①重心の移動 ②身体がまわりやすい ③外脚荷重からのスキーの走りを意識することです。

選考会の日、参加者の応援もあり、明るい雰囲気の中応用種目からのスタートです。コンビネーション、大回りと滑り、小回りは前日講習のアドバイスで迷いが消えて納得のいく滑りが出来ました。

しかし教程種目では、課題を意識して滑ることが出来ず、特に洗練のパラレルターンⅠでは、あれもこれもと考えているうちに何も出来ずにゴール（スキーあるあるですよ）。上手いかなと反省しながらも（ジュニアのポールが・・・自分に言い訳をして）気持ちを切り替えて、8種目を無事に滑り終わり、昨年に引き続きデモンストラターの認定を受けることが出来ました。

閉会式では野瀬技術部長の総括で、「出来てるつもり、やってるつもりでも以外と出来ていません。アドバイスを受けて練習することで、気づきがあります」との話がありました。今回のデモ選は参加するか迷いましたが、自分の滑りを見直す良い機会になりました。まだまだ伸びしろがあると思って、これからも練習して行こうと思います。

みなさんもうですか？デモ選、テクニカルコンペに参加してみませんか？緊張もしますが、終わった後の解放感で滑るスキーがまた楽しいですよ！

北海道のデモ選・テクニカルコンペに参加して

大阪スキー協議会・赤木徹郎



私は上級指導員になってから、できるだけデモ選に参加し、今の自分のレベルはどんなものかと挑戦してきました。過去に3期にわたりデモ認定になりましたが、デモ認定後は特に不安と責任を感じ、他の指導員に対し迷惑かけないような指導をとにかくやってきました。（ちょっとカッコよく書きすぎですが）。今回私が北海道旅行中の1月26日、北海道でデモ選が開催されることを知っていたので一緒に滑ってみたいとの思いで大阪から明星指導員と2人で参加しました。結果は平均75点に及ばず残念でしたが、今の自分の滑りと、検定員3名の検定会後の講習や講評でさらに理解できたのではないかと

思っています。

長野でのデモ選、コンペと違い参加者も多く明るい雰囲気で開催されていることに、活気を感じました。クラブから応援団も来ていて、励まされたのではないのでしょうか。またスキー協会以外の方も参加されているなど、この楽しんでいるエネルギーの源はなんだろうと観察すると、スタッフの役割がきちりしている事やお互いのコミュニケーションがとれているなどいろんな人とかかわる大切さと分担していく事の組織性の大切を感じました。

北海道で滑るのは初めてで私の長年の夢でした。スキー協があることにより北海道のスキー協の会員さんのお世話になったことに本当に感謝しています。宿の手配、リフト券の早割購入、テイネスキー場ではわざわざ北海道スキー協の会員さんが来てくれて、リフト割引やスキー場案内までしていただきました。お世話になったことを、私自身がスキー協の中でお返しできたらと思っています。3月の長野のデモ選には再度挑戦したいと思います。北海道スキー協の皆さんお世話になりありがとうございました。私の大切な思い出となりました。

テクニカルコンペに参加して

札幌レーラースキークラブ 小松原 寿純



スキー協議会の友人から大会へのお誘いがあり、少し迷いましたが久しぶりと思い参加を決めました。迷った理由は練習する時間があまりとれず、自分で納得のできる滑りができるかどうか心配だったからです。皆さんも同じだと思いますが指導員の資格をとると、周りからの助言は減ってきます。でも、自分の滑りは常に気にかかっていた機会があるごとに動画を撮ってもらったりしていました。今回は良い機会と思い事前講習にも申込みをしました。

前日の25日にコンビネーション、大回り、小回り、不整地斜面の順で滑りそれぞれに検定員の方々からとても適切なコメントをいただきました。ズバリ自分でも普段感じていることやこれからの滑りで参考になることばかりで思わず、「来てよかった!!」という思いでした。翌日の本番では改善点を復習して臨み、自分で思っている以上の滑りができました。まだまだ、理想と現実のギャップがありますが少しずつ理想とする滑りに近づいていけるように頑張っていきたいと思っています。

大会関係者並びに検定員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

道HPのトップをリニューアル

道ホームページのトップページを、ぎやろっぴ会員の高橋さんの協力を得て、リニューアル致しました。明るく、魅力的なページになり、PCの画面でも、スマホでも見やすくなっております。

訃報

全国スキー協前会長 栗岩恵一さんが2月9日にご逝去されました（享年70歳）在りし日のお姿を偲びつつ、ご冥福をお祈りいたします